

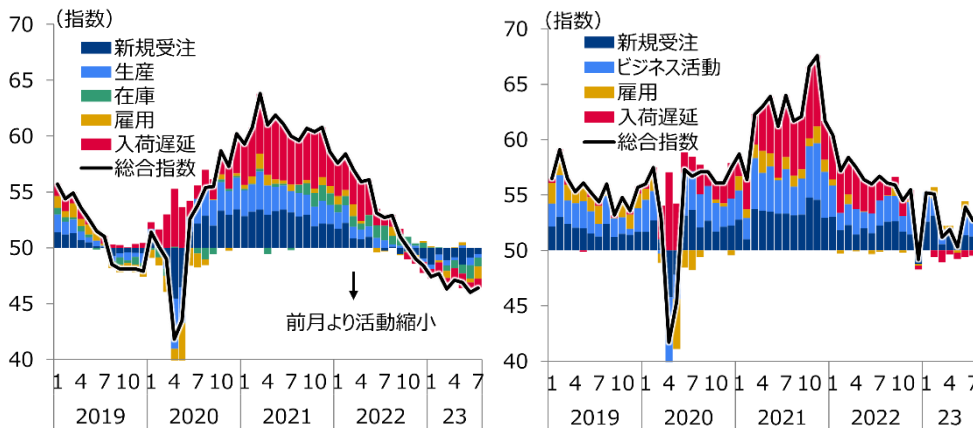
米国

ISM景況指数（2023年7月）

## 企業活動は鈍化、先行きは自動車生産と人手不足の行方に注目

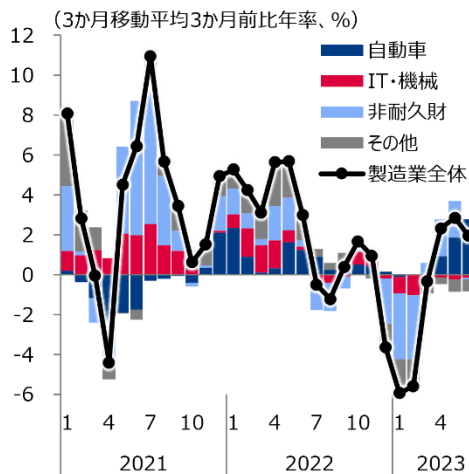
政策・経済センター  
浅井優汰  
03-6858-2717

## 1 ISM景況指数（左：製造業、右：非製造業）



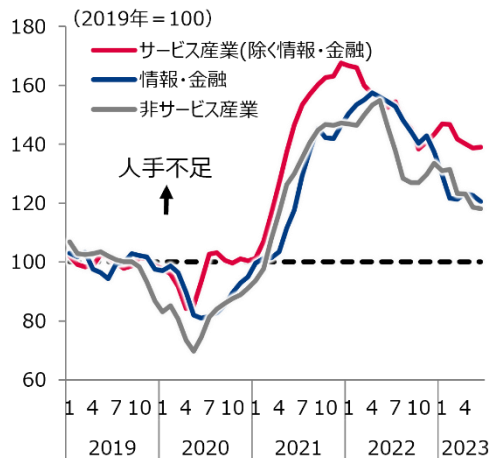
注：調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。  
出所：Institute for Supply Management®より三菱総合研究所作成

## 2 製造業生産



注：直近は23年6月。  
出所：FRBより三菱総合研究所作成

## 3 産業別の欠員率



注：直近は23年6月。非サービス産業は、林業・鉱業、建設業、製造業、卸売・小売業。破線は19年水準。  
出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 23年7月のISM製造業景況指数は46.4と、前月から小幅上昇にとどまり、経済活動の拡大・縮小の境目である50を9カ月連続で下回った。非製造業は52.7と、前月から低下した。7カ月連続で50を上回っているが、19年平均（55.5）を下回る低水準で推移しており、均してみれば緩やかな低下傾向にある（図表1）。
- 製造業の項目別では、需要の強さを示す新規受注が47.3と10カ月連続で50を下回っているほか、在庫も46.1と低水準で推移、需要鈍化が続いている。また、雇用は44.4と50を大幅に下回っており、労働需要の鈍化傾向が示された。
- 非製造業の項目別では、需要の強さを示す新規受注（55.0）、企業の活動現況を示すビジネス活動（57.1）ともに高水準で推移した。雇用は前月から低下したが、16業種中14業種で雇用拡大が示され、労働需要は底堅い。

## 基調判断と今後の流れ

- 企業活動は鈍化している。金融引き締めで製造業の活動縮小が長期化する一方、非製造業は旺盛なサービス消費が下支えし、底堅く推移している。
- 先行きは、金融引き締めに伴う金利高止まり、融資基準の厳格化が抑制要因となり、23年末にかけて、製造業は横ばい、非製造業は50超で緩やかな低下を続けるだろう。先行きは、①自動車生産、②長引く人手不足、の行方に注目だ。
- ①について、金融引き締めの中、自動車生産の回復が製造業生産を下支えするとみる。23年4月以降、半導体などの部品調達環境の改善に伴い、自動車生産（図表2■）は急回復、全体を押し上げている。20-22年に発生した部品不足などで抑制された自動車販売は約800万台と推計され、自動車ローン金利高止まりの中でも、需要は底堅く推移し、関連産業を下支えするだろう。
- ②について、景気に敏感な情報・金融を除くサービス産業では、長引く人手不足が、引き続き企業活動を抑制するとみる。ISMのコメントでは、宿泊・飲食、経営サービスなど、幅広いサービス業で人手不足が指摘されている。実際、情報・金融除くサービス産業は欠員率の低下ペースが遅い（図表3）。人手不足の長期化は、事業活動の制約やサービス価格の高止まりに繋がる恐れがある。